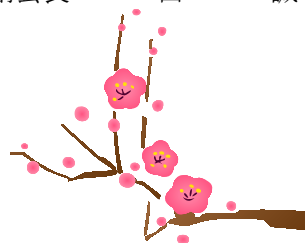


宮崎県社会教育委員連絡協議会 会報 [第8号]

平成22年3月発行

社会教育委員の皆様へ 宮崎県社会教育委員連絡協議会副会長 西 誠

寒暖の気温変化が大きいながらも、紅梅や白梅の花が満開を迎え、街頭や公園には早春を彩る草花が春の香りを漂わせ、私たちの心を軽くしてくれる今日この頃であります。各地区の社会教育委員の皆様いかがお過ごしでしょうか。



個人の権利やプライバシーの保護など、個人の側面を重視する最近の風潮が、共同体としての人と人との結びつきを失わせているように思います。そのような中で、親からの虐待による子どもの死亡事件、子どもによる家庭内暴力で親・親族が殺傷される事件など、子どもたちを巡る様々な問題が発生し、社会的な関心事となっております。その解決には、家庭や地域の教育力の向上を図り、地域全体で子どもたちを健やかに育むことが必要であるとの認識が高まっております。

私も社会教育委員を引き受けましてからは、研究大会や視察研修の場で他地区における取組の発表や紹介を見聞する度に、改めて、子どもたちの健やかな成長を育むためには、家庭・学校・地域の連携協力が必要であるという思いを強く抱いております。

市町村の合併や行財政改革など、昨今の制度改革は、私たち社会教育委員の動向にも少なからず影響を及ぼしております。けれども、社会教育委員には、「子どもの成長を支える」ため、地域の教育力の向上への貢献など、具体的な活動が期待されております。

「地域の子どもは地域で育てる」という思いをしっかりと胸に刻み、県下各地区の社会教育委員の皆様とともに粘り強い取組を進めていきたいと考えております。

社会教育委員としての取組

(各地区代表より)

【宮崎地区】

宮崎地区会長 池田 昭

《内容》～合併に伴う研修会の在り方（取組）

宮崎地区は、従来1市6町での活動を進めてきたが、今回の合併により、1市（宮崎市、田野町、佐土原町、高岡町、清武町）と2町（国富町、綾町）になり、今までのような研修会が難しくなってきた。そこで、現在までの取組や合併後の取組について、不易と流行を話し合いながら、今まで各町にあった教育委員会等の現状をふまえて「自らの地区は自らが創る」ことを柱に新しい社会教育（個人の要望や社会の要請）の方向性としての「住民の幸せづくり」を考えていくものである。

それと同時に、新しい市としての根拠やビジョンを理解しながら「できるものをできるときに」を念頭におきながら、特に地域の課題の解決は合併をぬきにしては考えられないし、地域の範囲も異なり、それらをどう取り入れていくかも必要である。さらに住民同士の考え方や行政の考え方を探り、地域づくりや人づくりを進めていくことである。最後に合併ははじまりであり、終着駅はなく、いろいろな課題や問題が生まれてくると考えるが、あくまでも「住民の幸せづくり」をスローガンに社会教育や生涯学習を進めていく事業等を話し合っていくことにしている。



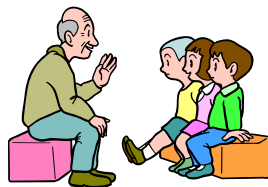
【南那珂地区】

南那珂地区会長 中島 淳祐

《社会教育委員としての取組》

平成22年1月14日（木）南郷ハートフルセンターにおいて、南那珂教育事務所と共催で、学校と地域が一体となった「子どもを育てる活動」の推進に資するテーマのもと、管内の小・中学校生涯学習担当者、社会教育委員、社会教育指導員、社会教育担当者など73人の方々に集まって頂き、講演と活発な意見交換がありました。講演は「学校イキイキ、地域のチカラ」の演題で、延岡市立岡富中学校区の地域コーディネーター富山久美子さんから、学校支援地域本部事業について豊富な資料をもとに話を頂きました。

それから間もなく、1月20日（水）、日南市議会会議室で日南市教育委員と社会教育委員合同研修会が開かれました。市側も教育長をはじめ14名の課長、補佐などが出席されました。不肖私が議長を務めることになり、全員に指名し発言を求めたところ忌憚のない意見がだされました。市側からも、あいさつ（プラス）運動について提案があり、この頃あいさつをしなくなった子どもたちに徹底を図ることになりました。放課後子ども教室の現況についても、文化生涯学習課から説明がありました。



両方の研修会をとおして、益々社会教育委員の責任を痛感したところです。

【北諸県地区】

三股町社会教育委員 田中 正吉

北諸県地区は、都城市と三股町にそれぞれ社会教育委員が委嘱されていますが、今回は三股町社会教育委員の取組を報告いたします。

平成21年度第1回会議では、役員改選及び社会教育行政・事業計画等について協議しました。協議の中では、社会教育委員として地域・家庭・学校等とどのような関わりを持つのかという課題に議論が集中し、活発な意見交換が交わされました。その中で、各々がさらに一步踏み込んだ活動を積み重ね、また次の活動につながるよう心がけようと意思統一されました。

平成21年度事業のひとつに掲げられていた、九州ブロック社会教育研究大会を兼ねた全国社会教育研究大会熊本大会にも参加しました。まず、熊本県立芥明高等学校郷土芸能部のアトラクションでは地元の伝統芸能を愛する心に感動し、熊本県知事による基調講演では、夢を追いかける前向きな姿勢に感銘を受ける幕開けでした。シンポジウムや分科会では、全国各地の生涯学習に携わる方々の卓越した活動に感心するとともに、足元を見つめなおす必要を感じる大会でした。



平成21年度事業は、「社会教育委員として地域等との関わりをどう持つか」という当初の課題につながるヒントをもらった活動となり、今後活かせるものと期待しています。

【西諸県地区】

野尻町社会教育委員 平石 恭頭

《社会教育委員としての取り組み》

野尻町社会教育委員は6名で、町内の幅広い組織の中から選ばれている。今年度の西諸県地区社会教育委員連絡協議会の研究主題は「生涯学習の視点に立った豊かな地域づくりのための活動はどうあるべきか」であるが、野尻町社会教育委員では「町内すべての子どもに平等に放課後における安心・安全な居場所の提供」をテーマとして活動している。町内では現在「放課後子ども教室」が2ヶ所で開設されており、スタッフとして参加されている社会教育委員もおられる。



教室の運営内容としては、学習・遊びを中心とし、季節に応じた行事等も取り入れながら実施している。登録児童も少しずつ増えているが、スタッフの充実と安全な居場所の提供が望まれている。保護者の意見としては、大変好評であり家庭での会話が增え、手伝いもするようになり、教室が開催される日には喜んで学校に行くなどの声も上がっている。私たちも社会教育委員として、しっかりとサポートしていかなければならないと考えているところである。

【西都・児湯地区】

新富町社会教育委員 久保 兼年

～西都・児湯地区社会教育委員連絡協議会視察研修について～

2月23日(火)に恒例の視察研修を行いました。行き先は綾町で、綾城・酒泉の杜、そして、今話題の「雛山まつり」を視察するというものでした。参加者は6市町の26名(委員19名、市町職員7名)。9時15分に事務局である新富町中央公民館に集合し、貸し切りバスで出発、16時に到着するという日程。最初の視察は「綾陽校記念館」。建物は藩校の名残であろう。中には昔ながらの民俗資料が展示されていました。昔の居間に本物そっくりの夫婦が居て、その前に立つとテープが廻り、説明が聞けるというものでしたが、昔を偲ぶには良きかなと思ったことです。

次に、綾城・綾国際クラフトの城・クラフト体験館を見学し、酒泉の杜へ。酒泉の杜では、焼酎造りの施設を案内付きで見学。芋とアルコールの匂いを嗅ぎながらの見学は焼酎好きには楽しいものであったことでしょう。

昼食の後は、町の中に何カ所も設置された「雛山まつり」を見学して綾のやる気を感じたことです。かなりの経費と労力を使って孫の為に飾る「雛山」もあり、そのエネルギーに感心しました。

その後、予定通りに到着して今回の視察研修を無事に終わりました。私の会長職も4月の総会のみとなりました。何もしない会長で終わりそうです。



【東臼杵地区】

東臼杵地区会長 柘植 健

《第2回研修会報告》

東臼杵地区では、「学校・家庭・地域社会との連携と協力の在り方」のテーマのもと、12月11日に椎葉村開発センターで社会教育委員連絡協議会第2回研修会を実施した。

事例発表では、諸塚村甲斐謙二委員が「諸塚村の社会教育と公民館活動」という題で、

地域連携と相互扶助精神を基本とした自治公民館組織や子褒め表彰、地域伝統行事の継承等について紹介された。また、延岡市子ども会育成連絡協議会から、加入率が低下している子ども会活動の活性化のためのインリーダークラブの活動を「目指せ遊びの天才！」という題で発表され、児童の変容や課題等を皆で共感・共有できた。

講話は、「椎葉村に伝わる昔話と民謡」という題で椎葉村教育委員会山中千夏係長の概要説明の後、椎葉村松尾の那須英一さんが子どもの頃聞いた奥日向伝承の昔話を披露された。その後、ひえつき節保存会長の黒木忠さんに「正調ひえつき節」「駄賃付け唄」等をうたっていただいた。感動をもらうとともに社会教育委員として伝承文化継承についての見識を深めることができた。



まさに、民俗文化の宝庫といわれる、椎葉村ならではの内容で充実した研修会となった。

【西臼杵地区】

高千穂町社会教育委員 押方 勇夫

高千穂町社会教育委員は、社会教育関係団体代表者及び学識経験者で構成され、年2回の会議と1回の研修視察を実施し、委員の資質の向上を図っています。

会議では地域住民と社会教育のかかわりや、生涯学習を推進していくための施策について委員の意見を集約し、学習計画に盛り込み講座開設等に活かしており、その結果、生涯学習推進会では、毎年、うるおいと・やすらぎ・いきがいのある町づくりをめざして「町民のつどい」を開催していますが、その幹事として参加し本町の特性を生かした個性豊かな生涯学習の推進に向けて、みんなで協議しています。

また、地域でこどもを育てる【子育て応援「ゆい」高千穂事業がまだせ若竹会議】を結成し、生活リズム向上、読み聞かせ、夏休み冬休み中の学習教室等を行い地域のボランティア団体と連携をはかりながら活動しています。

昨年の視察研修では、福岡県小郡市松崎地区が高齢化の進む中、町の賑わいを取り戻そうと、歩いて楽しい『景観まちづくり』で新たな歴史・文化の再発見に努めている取り組みを視察し、今後の本町の町づくりについて勉強しました。

本年度は地域における生涯学習また、学校・家庭との連携を図るべく地域教育力向上に関した先進地視察を実施したいと考えており、社会教育委員の職務を達成するために、「住みよいまちづくり」を目指して、微力ながら日々研鑽し地域住民の意向を反映させた委員会にしていきたいと思っています。





第51回全国社会教育研究大会概況報告

(事務局)

平成21年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナーの開催について会報第7号でもお知らせいたしましたが、平成21年11月20日に高鍋町中央公民館で約300名の出席のもと盛大に開催されました。

最初に、事例発表を「地域の子どもは地域で育てる」と題し、木城町子ども会育成連絡協議会会長 萱嶋了氏にいただきました。



- 木城町は、自然豊かな農山村地域で、人口約5千人、小学校2校、中学校1校で児童生徒の数は、441名である。年々子どもたちの数は減少している。
- 他の市町村と同様に、地域社会においての人間関係の希薄化が進んでいると感じており、子ども会等の地域活動も衰退傾向にある。
- 平成18年度から県の事業指定を受けて、子どもたちの活動を支援するため、地域が一体となり「地域の子どもは地域で育てる」を共通目標とし、学校・家庭・地域の連携を目指した地域教育システムの確立に向けた取組を始めた。
- 事業概要として、① 学校への支援…木城っ子応援隊、② 家庭への支援…家庭教育充実事業、③ 地域への支援…木城っ子安全守る隊 の3つに取り組んだ。
- 最初に、学校・家庭・地域の活動を行うための人材バンクの作成に取り組み、2つの組織を結成することとなった。
 - ① 木城っ子応援隊
様々な活動を指導・支援する組織。学校においては、教科指導補助等を行う。
 - ② 木城っ子安全守る隊
登下校の見守り活動を行うための組織。併せて校外学習での安全管理や地域のイベントでも活動。
- 地域で子どもを育てるシステム作りに取り組んだ結果、学校・家庭・地域において子どもを見守る体制が確立されたが、これには子育てを終えた方々やシルバーパワーの協力が重要だった。今後の課題としては、いかにして次世代を導く指導者を育成するかである。
- 現在、指導者の育成をねらって「木城町子どもフェスタ」を開催している。これは青少年育成団体を中心に実行委員会を編成し、一泊二日の異世代間の宿泊研修を企画・運営するものである。このような取組を通して、今後も子どもたちの健全育成に努めていきたい。

萱嶋氏のご発表は、具体的な実践を通しての事例であり、各市町村においても大変参考となるものでした。

続いて、「生涯学習社会における社会教育のあり方ーこの間の動向と今後の方向ー」と題して青山学院大学教授 鈴木 眞理氏に講話をしていただきました。



- いつの時代も、「これからの・・・」「新しい時代の・・・」と言うが、振り返ってみると、生涯学習・社会教育も以前から繰り返し言っている。

- 社会教育には、いろいろな学びがあるが、教える人と学ぶ人がいる。こういう働きかけがあるのが教育である。「どうぞ自由に」というのは教育ではない。
- 教育ではないところで学ぶ事例としては、読書がある。読書は、本を読むことで学び自分を変えることに繋がる。本屋は、商売をするところであって、教育をしているわけではない。
- 社会教育施設である図書館は、人が学ぶこと（生涯学習）を支援している場所である。
- 生涯学習は、どんな観点で評価するのか。成果はいつ現れるのだろうか。
- 基本的に生涯学習の成果は、受けた人のものである。しかし、それだけではない。誰かが学んだことで、他の誰かが助かることもあるのである。つまり成果は、自分だけのものではなく、他の人へ波及するものもある。また、すぐに成果が現れるものもあれば、時間のかかるものもある。成果がすぐに現れないからといって途中でやめてしまうのではなく、継続することが大切である。
- つまり、私たちが目指している社会は、生涯学習社会であり、個人の得になるだけではないのである。
- 以前、生涯学習の中で、ダンスインストラクターが受講者を殺害する事件があった。教育の中で、教わる人が教える人を殺すことはあったが、教える人が教わる人を殺すことはあり得なかった。つまり、今は、教える人は、単なる知識の受け渡しをしているだけになっているのではないか。教える側の意識の問題である。
- 「お掃除教室」という講座もあるが、学校や家で掃除はしているが、なぜ、「お掃除」を学ぶ必要があるのだろうか。「教室」と名がつき、体験的に教えてくれる方がなんとなくよい印象が受講する者の意識にあるのだろうか、また、教養を問う検定が人気になっているが、なぜだろうか。学んだことを認めてもらわないと不安なのだろうか。また、認めてほしいのだろうか。私たちは何のために学ぶのだろうか。学ぶ側の意識もおかしくなっているのではないか。
- 平成20年社会教育法の一部が改正されたが、学校支援への取組も記述されたが、これは、社会教育も学校の役に立ちますよという視点で理解してはだめである。社会教育は学校をサポートするのではなく、自分の学んだ成果を発揮する場所であるという意識が大切である。
- 学校だけが学びの場ではない。学校は、人が集まって、知識のやりとり、交流をするところであるが、学習指導要領に則り、決められたように行われるところである。つまり、学校教育は、やらなくてはならない。終わりがある。決められた枠の中でやる場所である。
- それに対して、社会教育は、興味がある人、やりたい人がやるもので、順序性や段階はない。決められた枠の中でやるのではなく、むしろ枠はない。また、やっても終わりがなく、組織的にやっているが、全く学校とは違うのである。
- 学社連携とよく言われるが、社会教育は、「お役に立ちます」では、本来の特性は活かされないのである。
- これからの社会教育行政は、社会教育の意義が真に理解されて展開する必要がある。社会教育の意義や特性が理解されていないから、社会教育はいらないとか言う者が出てきているのである。
- 最後に、これからも社会教育は必要であり、ますます重要視されるのである。社会教育委員の皆さん、公民館等の社会教育関係者に期待していることは、これからの社会の中で、本日申しましたように社会教育の重要性を理解され推進していただきたい。また、地域にある社会教育遺産を発掘していただき、それを次の世代に繋

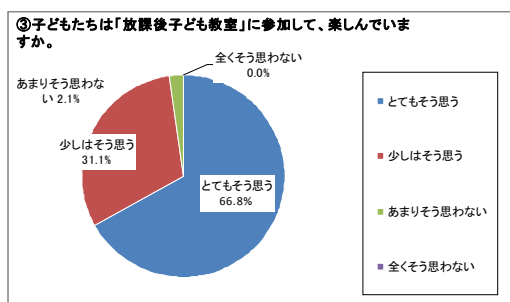
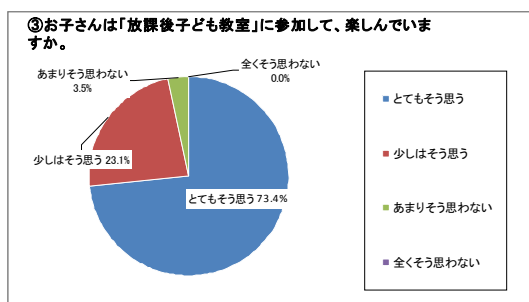
げるのは、今を生きる者の役目であると思う。
鈴木先生は、随所にユーモアを交え、社会教育の必要性和期待を私たちに語りかけていただきました。本当にありがとうございました。

社会教育関係情報

放課後子ども教室アンケート結果について

本会報の冒頭の社会教育委員の取組の中でもご紹介していただいた放課後子ども教室は、平成22年度で4年目を迎えます。今までの取組の検証として、2月に放課後子ども教室を利用している子どもさんの保護者と安全管理員等の指導者へのアンケート調査を実施し、それぞれ750名、244名から回答をいただきました。その結果の一部をご紹介します。

〔問い〕 子どもは「放課後子ども教室」に参加して楽しんでいますか。

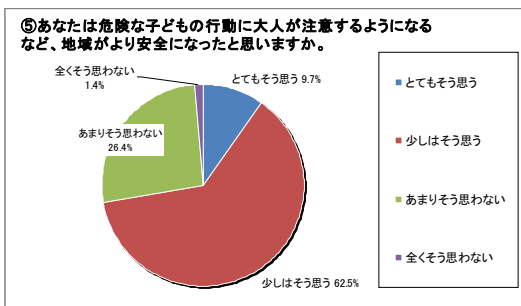
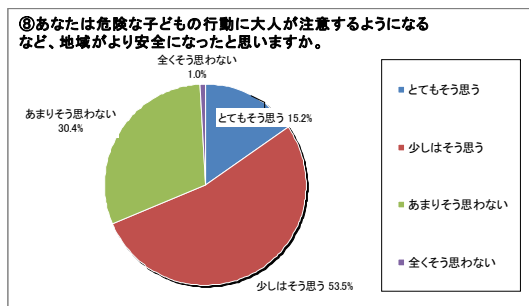


〔保護者〕

〔指導者〕

- ・ 放課後子ども教室に参加する子どもたちを見て、保護者、指導者ともに、ほとんどの子どもたちは楽しんでいると感じている。
- ・ 「とてもそう思う」に関しては、指導者よりも保護者が感じている割合が高い。

〔問い〕 あなたは危険な子どもの行動に大人が注意するようになるなど、地域がより安全になったと思いますか。



〔保護者〕

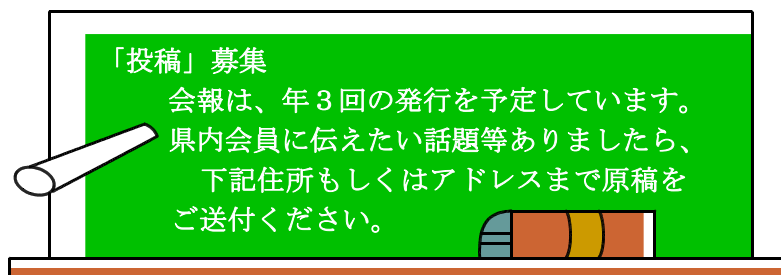
〔指導者〕

- ・ 保護者、指導者ともに約7割が、地域がより安全になったと感じている。
- ・ 「少しはそう思う」の割合が保護者は5割で、指導者は6割となっている。

今回は、2例のみの紹介ですが、アンケート全体を通じて見えてくるものとして、放課後子ども教室に対する保護者はもちろん指導者の大きな期待であるし、本事業の継続を願う気持ちです。成果として、子どもたちの安全・安心な環境づくりはもちろん、異年齢集団での体験活動の中で培われる、子どもたちの基本的な生活習慣や社会性、豊かな人間性があります。まさに、社会教育ならではの本事業の成果と捉えることができました。各地域においても、今後ともご支援していただければと思います。

～お知らせ～

- 今後の予定
 - ・ 平成22年度理事会及び監査
5月19日(水) 県庁会議室(各地区理事及び監事)
 - ・ 平成22年度総会及び研修会(予定※理事会の承認を受けて決定)
7月9日(金) 会場未定
 - ・ 平成22年度九州ブロック社会教育研究大会
10月14日(木)～15日(金) 佐賀県佐賀市
 - ・ 平成22年度全国社会教育研究大会
10月27日(水)～29日(金) 福島県郡山市
 - ・ 平成22年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナー
12月9日(木) 宮崎市佐土原町文化センター(予定)
- ※ 理事会・総会で承認を受けるため仮予約です。今年度同様に県公民館連合会と合同開催ですが、公民館関係、社会教育研究大会の全国・九州大会の時期が重なっており、例年より時期が遅れています。
- 7教育事務所の事務所再編により、平成22年度に3教育事務所(南部、中部、北部)となります。各地区社会教育委員の皆さんから、本連絡協議会の再編はあるのだろうか等の御質問をいただいています。会長と御相談し、事務局の基本的な考え方としては、県社会教育委員連絡協議会は、任意の団体であり、各地区において御判断していただければと考えています。理事会、総会での中心的な話題にしていきたいと考えています。
- 事務局(県教育庁生涯学習課内)が、県庁4号館7階から同2階に移転しました。
- 事務局への御意見、御要望等ありましたら下記まで御連絡ください。



事務局：宮崎県教育庁生涯学習課(担当書記：小嶋)
住所：〒880-8502 宮崎市橘通東1丁目9番10号
TEL：0985-26-7245
FAX：0985-26-7342
E-mail：kojima-masafumi@pref.miyazaki.lg.jp

生涯学習、社会教育に関する情報が、県の生涯学習情報システム「SUN-NETみやざき」(平成22年度からは、「みやざき学び応援ネット」)で御覧いただけます。インターネットに、是非、アクセスしてください。

<http://sun.pref.miyazaki.lg.jp/>

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム

